シラバス参照

タイトル「**2022年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	SSCS3619		
科目名	技術トレーニング論演習		
担当教員	澤野　大地		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水２		
講義室	1402	単位区分	選,選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門応用		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕　専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-G 〔状況把握力・判断力〕　自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP3-H 〔論理的思考力・批判的思考力〕　理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-F 〔探究力・課題解決力〕　問を設定し又は論点を特定し、それに対 する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I 〔理解力・分析力〕　文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 E1学識と専門技能-40% F1探究と論拠-25% G1状況把握-20% H1論理的思考-5% I2量的分析-5% I3情報分析-5%		
教員の実務経験	オリンピック3大会（2004年、2008年、2016年）、世界陸上7大会（2003年、2005年、2007年、2009年、2011年、2013年、2019年）に出場しました。その競技者としての経験を活かして、講義を行います。また日本オリンピック委員会アスリート委員長として活動をしている中で、あらゆる競技の選手と関わってきた経験を活かして、講義を行います。（第4回、第7回）		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージと対応 ３発展期～４定着期		
科目概要・キーワード	本演習では、技術トレーニング論で学習した内容を踏まえて、これに関する国内外の研究論文を精読することによって、技術トレーニングの実施方法について理解し、各自が行っている技術トレーニングの分析を行います。特に、技術トレーニングと体力トレーニングの相補関係について学習し、各自の専門種目において、より実践的な技術トレーニング方法論を構築できるようにします。授業形態は、調査・研究及びプレゼンテーションを中心とした演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。 ■キーワード　スポーツ技術・技術トレーニング・技術構造分析		

<table>
<tr><td>授業の趣旨</td><td>■副題
　各自が行なっている技術トレーニング手段を明確にし、より実践的な技術トレーニング方法論を構築します。
■授業の目的
　現在各自が行っている技術トレーニングの手段を明確にし、技術・体力の関係から、各自の専門種目においてより実践的で効果的な技術トレーニングを構築することを目的とします。
■授業のポイント
　各自が行なっている技術トレーニングが持つ特性と体力・戦術との関係性を分析することにより、実践的な技術トレーニング手段を選択していくことができるようになります。また、競技特性の違う種目における技術トレーニングを調査・研究することで、自身の競技種目においてより実践的な技術トレーニングを構築できるようになります。</td></tr>
<tr><td>総合到達目標</td><td>■自身の競技種目においてより実践的な技術トレーニングを構築できるようになるために、各自が行っている技術トレーニング手段を明確にし、技術・体力・戦術の関係から効果的な技術トレーニング手段を選択していくことができるようになる。
・技術トレーニングの基礎的知識について説明できる。（第2回、第15回）
・技術・体力・戦術の関係性について分析し説明することができる。（第3回～第14回）
・自身の行っている技術トレーニングを、競技特性の違う競技に応用することができる。（第7回～第10回）</td></tr>
<tr><td>成績評価方法</td><td>■プレゼンテーション （60%） 適用ルーブリック E1 G1
（評価の観点）プレゼンテーション（３回）において、それぞれのテーマに沿ったプレゼン資料が作成できているかどうかを評価します。
（フィードバック方法）各発表後、講評を行います。
■ 授業参加度（40%） 適用ルーブリック F1 H1 I2 I3
（評価の観点）提出物、グループワークでの発言などを総合的に見て評価します。</td></tr>
<tr><td>履修条件</td><td>技術トレーニング論を履修していること。また体力トレーニング論を履修していることが望ましいです。</td></tr>
<tr><td>履修上の注意点</td><td>特にありません。</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td>
<table>
<tr><th>回</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>①授業テーマ　ガイダンス
②授業概要　授業の進め方や評価について説明を行う。また授業の概要やその方法について説明する。
③予習（120分）　シラバスの内容をよく読んでおく
④復習（120分）　ガイダンスの内容をもう一度確認し、シラバスを読んで授業の流れを確認しておく。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>①授業テーマ　技術トレーニングについて振り返り
②授業概要　技術トレーニング論で学んだことを振り返り、技術トレーニングの基礎的知識についてもう一度説明できるようにする。(E1、F1)
③予習（120分）　技術トレーニング論で学んだことをまとめておく。
④復習（120分）　技術トレーニング論の内容を振り返り、自身の技術トレーニングについてまとめる。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>①授業テーマ　技術・体力・戦術との関連
②授業概要　技術・体力・戦術の階層構造関係について学び、それについて説明できるようにする。(E1、F1、G1)
③予習（120分）　技術・体力・戦術の関係について検討しておく。
④復習（120分）　自身の専門とする競技でのパフォーマンス構造モデルを検討しておく。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>①授業テーマ　技術トレーニング手段の分類①
②授業概要　自身の行っている技術トレーニング手段について目的別に分類することができるようにする。(E1、F1、G1、H1、I2、I3)
　担当教員の実務経験を踏まえて、目的別に技術トレーニング手段を分類した例示をあげながら、講義を行います。
③予習（120分）　自身の行っている技術トレーニング手段をまとめておく。
④復習（120分）　分類した技術トレーニング手段をまとめておく。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>①授業テーマ　技術トレーニング手段の分類②
②授業概要　研究論文や文献、資料を収集して技術トレーニング手段について検討し(F1、G1)、自身の行っている技術トレーニング手段を分析できるようにする。(E1、F1、G1、H1、I2、I3)
③予習（120分）　自身の行っている技術トレーニング手段について検討しておく。
④復習（120分）　収集した文献や資料を精読しておく。</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

6	①授業テーマ　技術トレーニング手段の分類③ ②授業概要　自身の行っている専門種目の技術トレーニング手段を分類して、種目ごとの技術トレーニングの特徴について資料を作成し、プレゼンテーションを行う。(E1、F1、G1、H1、I2、I3) 発表後、講評を行います。 ③予習（120分）　収集した文献や資料から、自身の技術トレーニング手段について検討しておく。 ④復習（120分）　自身の技術トレーニング手段と、プレゼンテーションで発表された他競技の技術トレーニング手段の違いについて検討しておく。
7	①授業テーマ　競技種目による技術トレーニングの違い① ②授業概要　競技特性による技術トレーニングの違いについて説明できるようにする。(E1、F1、G1) 　担当教員の実務経験を踏まえて、トップアスリートの技術トレーニング手段について例を挙げて講義を行います。 ③予習（120分）　自身の技術トレーニング手段についてまとめておく。 ④復習（120分）　競技特性による技術トレーニング手段の違いについて確認しておく。
8	①授業テーマ　競技種目による技術トレーニングの違い② ②授業概要　競技特性の違う種目の技術トレーニング手段について、同様の競技種目のグループで資料を収集して検討し、プレゼンテーションの準備を行う。(E1、F1、G1、H1、I2、I3) ③予習（120分）　他競技の技術トレーニング手段について検討しておく。 ④復習（120分）　他競技の技術トレーニング手段について、さらなる文献や資料を収集しておく。
9	①授業テーマ　競技種目による技術トレーニングの違い③ ②授業概要　競技特性の違う種目の技術トレーニング手段について、同様の競技種目のグループで資料を収集して検討し、プレゼンテーションの準備を行う。(E1、F1、G1、H1、I2、I3) ③予習（120分）　収集した文献や資料を精読し、他競技の技術トレーニング手段について検討しておく。 ④復習（120分）　作成した競技特性の違う種目の技術トレーニング手段についての資料をまとめておく。
10	①授業テーマ　競技種目による技術トレーニングの違い④ ②授業概要　競技特性の違う種目の技術トレーニング手段について、グループごとにプレゼンテーションを行う。(E1、F1、G1、H1、I2、I3) 発表後、講評を行います。 ③予習（120分）　収集した文献や資料の内容を整理し、プレゼンテーション方法について検討しておく。 ④復習（120分）　競技特性の違う種目の技術トレーニングについてまとめておく。
11	①授業テーマ　実践的な技術トレーニングの構築① ②授業概要　各自の専門種目においてより実践的な技術トレーニング方法について、文献や資料を収集して検討し、プレゼンテーションの準備を行う。(E1、F1、G1、H1、I2、I3) ③予習（120分）　自身の専門種目における技術トレーニングについて検討しておく。 ④復習（120分）　関連する文献や資料をさらに収集しておく。
12	①授業テーマ　実践的な技術トレーニングの構築② ②授業概要　各自の専門種目においてより実践的な技術トレーニング方法について、文献や資料を収集して検討し、プレゼンテーションの準備を行う。(E1、F1、G1、H1、I2、I3) ③予習（120分）　収集した文献や資料を精読しておく。 ④復習（120分）　収集した文献や資料を整理しておく。
13	①授業テーマ　実践的な技術トレーニングの構築③ ②授業概要　各自の専門種目においてより実践的な技術トレーニング方法について、文献や資料を収集して検討し、プレゼンテーションの準備を行う。(E1、F1、G1、H1、I2、I3) ③予習（120分）　収集した文献や資料の内容を整理し、プレゼンテーション方法について検討しておく。 ④復習（120分）　作成した資料をまとめておく。
14	①授業テーマ　実践的な技術トレーニングの構築④ ②授業概要　自身で収集した文献や資料を整理し、実践的な技術トレーニングについてのプレゼンテーションを行う。(E1、F1、G1、H1、I2、I3) 発表後、講評を行います。 ③予習（120分）　自身のプレゼンテーションについてリハーサルを行い、あらかじめ

		想定される質問について検討しておく。 ④復習（120分）　自身の作成した資料を整理しておく。
	15	①授業テーマ　および技術トレーニング論演習まとめ ②授業概要　これまでの技術トレーニング論演習の内容について総括し、まとめを行う。 ③予習（120分）　これまでの内容をまとめておく。 ④復習（120分）　各自の専門種目におけるより実践的な技術トレーニングの方法を構築できるようにする。

関連科目	技術トレーニング論（SSCS2328）、体力トレーニング論 （SSCS2329）
教科書	特に指定しません。
参考書・参考ＵＲＬ	「スポーツ技術のトレーニング」グロッサー／ノイマイヤー、大修館書店、1995、ISBN978-4469263244 「スポーツ技術の指導」R.W.クリスチナ／D.M.コーコス、大修館書店、1991、ISBN978-4469161670
連絡先・オフィスアワー	■連絡先　開講時に告知します。 ■オフィスアワー　月曜5限 それ以外の時間については、メールにて事前にアポイントをとれば研究室で対応します。
研究比率	

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.